

2018年3月

講談師 旭堂 南青氏のお話を聞く機会に恵まれました。

講談のほかにも「東大阪市立縄手南中学校」の教育アドバイザーのスタッフとして活動なさっておられる様子です。

学校へ行かれた時には、男子トイレの掃除を、2時間ほどかけてするそうです。

芸能人は水商売と一緒にやから、トイレのような水回りの事を、しっかりきれいにしておく、金のまわりも、運気のめぐり等がよくなるからとの話しでしたが、人の嫌がることを、「ソツと」やっていくことに意義を見出しておられるのではと、思います。

よく、心のすさんだ人や荒れている学校で、「トイレの掃除」を自分が最初に進んではじめ、みんなが取り組むようになるまで根気よく続ける。その根気と努力を周りの人が認め、やらなかった人たちが実際にやってみて心の良い変化にきずきはじめ、みんながついて来てくれるようになると、生活習慣や学校生活が一変する。と良く見聞きする話です。

私自身もトイレ掃除は、割とする方ですが、なぜか心が落ちつくし、心洗われる気持ちになります。

南青氏自身の家庭の話に触れられて、人が振り返らない仕事、嫌がる仕事、であっても何年も何年も、毎日の少しずつの積み重ねが大事。10年やれば10年目にして見えてくるもの。金にならない仕事の話でも、その仕事をコツコツやっていくことで、いずれ芽が吹き、花が咲く。

何事も一緒、芸事。スポーツ、勉強。仕事も同じですと話しておられました。

「代々の教えを守り、伝える。京麩の優しい味とともに」の中で、玉置 万美氏が代々大切に守り続ける教えを書いておられます。

「先義後利」(せんぎこうり) まず人様のお役にたつことが大事。自分たちの利益はそのあとでよい。という意味

「単に京麩を販売して利益を得るのではなく、ほんとおいしい京麩買っていただいて、喜んでいただく。その代価として利益をいただく。そのためには、伝統の手作りの良さを活かす。

「不易流行」(ふえきりゅうこう) 伝統を守るだけでなく、本質的なことは大切にしながらも、時代や嗜好に合わせながら、新たな味の提供を模索していくということ。

「今泉 清詞氏のスピーチ」の一節より

「たらいの水」というのは、こっちに來い、こっちに來いとたらいの水を手でかくと、周りの水は反対側に行ってしまうんですが、逆にあっちに行くと手であおると周りの水は、こっちに寄ってきます。このように、自然の摂理も人間の摂理もたらいの水と変わらない、という例え話です。彼女はこれを実行し、グループの中で良いことがあると、こ

れはあなたがやったから、と手柄はみんな部下に与えるのだそうです。そうすると部下たちは翌日からハッスルして仕事を進めるとの事。隣のグループでは、良いことがあるとすべてリーダーの手柄にしてしまうそうで、部下はやりたいことをやればいいのかと、仕事に大変な違いが出てきますと、報告があったそうです。

2018年2月21日 西井忠義